

世界のアボカド市場(要約のみ抜粋)

[FreshPlaza 2025年5月30日](#)

ペルー等の中南米の生産国からの供給が急増し主要な地域で価格が圧迫されており、世界のアボカド市場では状況の変化が見られる。ヨーロッパと北米を中心に需要は堅調に推移しているが、一方、貿易の流れと価格水準を形成する上で、品質、物流及び市場アクセスがますます重要な役割を果たしている。

イタリアのアボカド市場は、急増するペルー産ハス種の圧力に直面しており、価格の下落による価格競争に繋がっている。これとは対照的に、ピンカートン品種のアボカドの需要は旺盛で、近年に比べて販売額が大幅に伸びている。

スペインでは2025年第1四半期にアボカドの輸出と輸入の両方が堅調に増加し、フランス、オランダ、ドイツが主な購入国であった。モロッコからの輸入が急増しており、夏場はペルー産を中心に供給量の急激な増加が予想される。

ドイツでは、EU向けのアボカドの量が前年比で37%増加したが、大玉が大半を占めており、スポット市場を圧迫している。スエズ運河経由の海上輸送の再開が見込まれることから、今後数カ月で供給がさらに増加する可能性が高い。

フランス市場では、主にペルーから供給される慣行栽培のハスアボカドに対する強い需要が見られる。しかし、量の多さが価格を押し下げており、シーズンは通常より約1カ月早く終了する可能性がある。

北米のアボカド需要は、シンコ・デ・マヨの行事の後も安定しており、夏の期間を通じて一貫した消費が見込まれる。カリフォルニア州、メキシコ、ペルー、コロンビアからの供給量の増加が、価格に下押し圧力をかけている。

世界最大のアボカド生産国であるメキシコは、来シーズンの生産量が5%、すなわち約15万トン増加すると予想されている。米国は引き続き輸出量の90%以上を吸収するものと見られる。

ペルーではシーズンの開始が昨年より遅れたが、生産量は昨年より多く、ヨーロッパ市場を圧迫している。生産者価格は下落し、輸出業者達は供給過剰を緩和するためにアジアや米国の市場に目を向けている。

チリは13万5千トンのアボカドを輸出し、ペルーからの輸入を補うため10万トンを国内市場に割り当てた。ヨーロッパでは、チリ産の夏場の価格が1箱当たり6〜8ユーロで、品質の重要性が強調されている。

コロンビアは、周年出荷と戦略的な立地に支えられて、世界のアボカド市場での役割を拡大している。今後のアンティオキア港の立ち上げにより、物流の制約が緩和され、輸出効率が向上することが期待されている。

中国では、ペルー産アボカドの出荷の遅れと着荷の減少により、価格が急騰している。チリの出荷は終わりに近づいているが、最近入荷しているものは品質が良い。

南アフリカの国内市場では、雨による収穫の遅れと供給の減少により、アボカドの価格が昨年より34%上昇している。輸出量は4kg箱で2,250万箱と予測されており、中国とインドで関心が高まっている。

モロッコでは今シーズン10万〜11万トンのアボカドを輸出し、初めて10万トンの大台を超えたが、価格は低かった。

執筆者: ステファン・ヤンセン・ファン・ニューウェンハイゼン